



## 入学おめでとう

入学おめでとう。

私（担任の保戸塚＝ほとづか）は日比谷に勤務して13年目、担任を努めるのも今回で3回目になる。今年入学した諸君の中には、一昨年の3月に卒業させた生徒諸君の弟さんや妹さんもいる。

しかし、3人の孫に囲まれ、すっかり「老人力」がついてきた今となっては、前の担任の時に何をしたのかはきれいさっぱり忘れていて、その意味では新鮮な？気持ちで担任の仕事に取り組めるかも知れない。

＊

ところで、君たちは「日比谷高校のイイところ」って何だと思いませんか？

「希望大学に進学できるところ」かな。「レベルの高い行事」とか「部活が活発なところ」といった答えがあるかも知れない。「空調の整ったキレイな校舎・トイレ」「都心とは思えない広さのグラウンド」「星陵会館などの付属施設」「多くの蔵書を誇る図書室」といった答えもあるだろう。あるいは「SSHやグローバル10といった指定を受けていること」「多くの著名人が先輩にいる伝統」ということを挙げる諸君もいるかも知れない。

私は、例えば学校説明会などでこの質問を受けると、いつも次のように答えている。

「日比谷のイイ所はいっぱいありますが、本当に素晴らしいところは「環境」でも「施設」でも「先生方」でもありません。本当に素晴らしいのは、ともに学ぶ「友人」たちの存在です。」と。

＊

知っての通り、日比谷高校は「進学指導重点校」として、君たちの将来の夢の実現をサ

ポートする学校である。しかし、ただ大学へ「進学する」ということが目標なら、何も「ここ」で学ぶ必要はない。極論をすれば、家で自分で勉強して高等学校卒業程度認定試験（旧大学入学資格検定）を受けたって大学へは行けるのである。

では、「ここ」で学ぶのはなぜなのか？

それは「友人と共に」、つまり、「We」で学ぶことに大きな意味があるからである。教科の学習にしろ、SSHの講座にしろ、部活動にしろ、行事に向けての準備にしろ、すべてを個性豊かな友人とともに行うのである。その中で、笑い、張り合い、得意になり、背伸びし、一方で、悔し涙を流し、羨ましく思い、卑下したくなったり悲しくなったりする…。そういうさまざまな思いを分かち合い、励まし合う中で、一人では決して得ることのできない、かけがえのない時間を君たちは手に入れることになるのである。日比谷には、その時間を分かち合える、いや、分かち合う価値のある友人たちがいるのだ。

誰にでもイイ面と悪い面とがある。100%の善人などいない。同じように、どの学校にもイイ面と悪い面とがあるだろう。どうか、周囲の友だちのイイ面を認めあい高めあう関係を築き、「生涯の友」と呼べるような存在を見つけしてほしい。そして、日比谷高校のイイ面とたくさん関わるような学校生活を送ってほしい。

＊

その手助けになることを願って、担任はこの「We」を書こうと思う。

ようこそ日比谷高校へ。入学おめでとう。